



# 読書

Books

第42回熊日出版文化賞は、「くまもとの戦争遺産 戦後75年 平和を祈って」(高谷和生著、自费出版=熊日出版制作・発売)▽「残夢童女 石牟礼道子追悼文集」(石牟礼道子資料保存会編、平

凡社)▽「平成28年熊本地震 益城町震災記録誌」(益城町編集・発行)の3点に決まった。受賞作の魅力を選考委員が紹介する。

## 第42回熊日出版文化賞

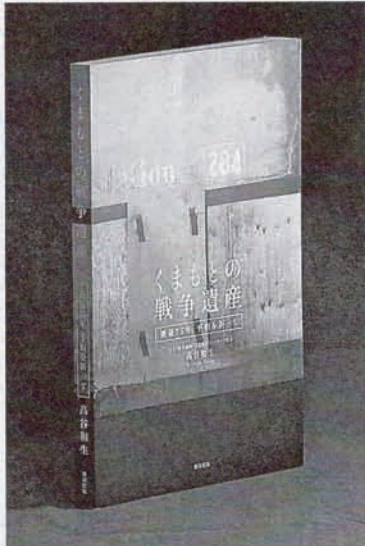
# 受賞作の魅力 紹介

## 情熱と努力で各地を精査

昨年2020年は新型コロナウイルス一色に染まり、アツという間に過ぎたよつな気がする。そんな年であったが、太平洋戦争が終結した昭和20(1945)年から4分の3世紀=75年の節目でもあった。これを目指して情熱を注いで上梓されたのが本書である。

実は10年前の平成23(2011)年の本賞選考会に、熊本の戦争遺跡研究会編の『戦後65年 熊本の戦争遺跡』(A4版・198頁)が出品され、見事第32回出版文化賞に輝いた。当時の研究会の若手で活動の中心の一人であった高谷和生氏は、刊行後も県内各地を精査し記録を重ねられた。

内容も、タイトルが「戦争遺跡」から「戦争遺産」に変わったように、遺された痕跡以外の資料にも広げられている。その研究成果は、肥後考古学会をはじめ各地の研究会や講演会で発表され、啓発活動にも力を注がれた。



自费出版(熊日出版制作・発売)  
・2530円

### 「くまもとの戦争遺産 戦後75年 平和を祈って」

高谷和生著

多忙な中で構成も新たに、原稿を書き下ろし、記念の日「令和2(2020)年8月15日」に刊行されたのは、情熱と努力のたまものと敬意を表したい。

全体が271頁に上る本書の内容については、いちいち触れられないので、章だてのみ紹介しておく。「第1章 軍都熊本」第2章 旧陸海軍飛行場「第3章 本土決戦軍施設」第4章 県下の軍工場・軍需工場」第5章 奉安殿・奉安庫」第6章 慰霊碑 他」第7章 県下空襲・航空資料」第8章 連合軍捕虜収容所」

この中の第8章は、長年研究されている古牧昭三氏の報告という。また話題性があるものとして、隈庄飛行場(別称・舞原飛行場)の項目で「三船敏郎さんと隈庄飛行場での演劇写真」と題し、当基地に配属されていた、後に日本を代表する大俳優となる三船上等兵の逸話を紹介している。

ほかに、県内の資料館8カ所の紹介やガイドマップ、戦争遺産の一覧や参考文献など4項目の附章があり、見学や研究の便も図っている。

本書は大部ではあるが、著者の情熱からすると、まだまだ調査研究が続きたい。次、次の10年後のまとめを期待したい。

評・富田紘一(熊本城頭彰会理事)

熊日出版文化賞は毎年、県内の個人・団体の優れた著作を顕彰している。今回は2020年に刊行された約100点を対象に選考。1月の熊日社内選考で候補作を15点に絞り、2

月24日に有識者ら委員7人による本選考会を開いて受賞作を決めた。本選考の委員は次の通り(敬称略)。

幸田亮一(熊本学園大商学部教授) 高濱州賀子(美術史

家) 富田紘一(熊本城頭彰会理事) 松木良介(グラフィックデザイナー) 岡本智伸(東海大農学部教授) 木下優子(県立図書館参事) 毛利聖一(熊日編集局長)